
三浦 一馬 Kazuma Miura, Bandoneon

1990 年生まれ。10 歳より小松亮太のもとでバンドネオンを始める。2006 年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニと出会い、その後自作 CD の売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで師事。2008 年 10 月、イタリアのカステルフィダルドで開催された第 33 回国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。2011 年 5 月には別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲリッチやユリー・バシュメットら世界的音楽家と共演。2014 年度出光音楽賞受賞。

バッハからガーシュウィンまでを編曲・演奏するなど、既成の概念にとらわれない意欲的な取り組みや、バンドネオンの可能性を追求する真摯かつ精力的な活動ぶりがテレビやラジオ等メディアに取り上げられている。2007 年、井上道義指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団、マルコーニ作曲「Tangos Concertantes」日本初演をもってオーケストラ・デビュー。以後、大植英次指揮大阪フィルハーモニー交響楽団、アロンドラ・デ・ラ・パーラ指揮東京フィルハーモニー交響楽団、飯森範親指揮大阪フィルハーモニー交響楽団、藤岡幸夫指揮関西フィルハーモニー管弦楽団、高関健指揮京都市交響楽団、井上道義指揮札幌交響楽団、秋山和慶指揮新日本フィルハーモニー交響楽団、円光寺雅彦指揮名古屋フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢等と共演。

CD はビクターエンタテインメントより 4 作品をリリース。『タンゴ・スイート』に続き、セカンド・アルバム『ブエノスアイレスの四季』はレコード芸術誌にて特選盤に選ばれる。2012 年には『カメラタンゴス』をリリース。リリース記念ツアーとして、マルコーニと東京・兵庫・名古屋で競演を果たし、白熱した演奏で聴衆を沸かせた。2015 年『三浦一馬プレイズ・ガーシュウィン』では、新しいバンドネオンのレパートリーを開拓し高い評価を得た。2014 年度出光音楽賞を受賞。

2016 年はデビュー 10 周年を迎えマルコーニと再びの競演で日本ツアーを開催。さらに大阪フィルハーモニー交響楽団第 500 回定期演奏会でバカロフの「ミサ・タンゴ」のソリストに抜擢され好評を博す。2017 年、デュッセルドルフにてドグマ室内オーケストラとマルコーニ作曲：カメラタンゴスで共演。自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスツ」を新たに結成。2018 年 10 月キングレコードよりキンテート（五重奏）によるピアソラ作品集『Libertango』をリリース。リリース記念を兼ねた全国 11 か所を回るキンテート・ツアーを成功に導く。また映画『ピアソラ 永遠のリベルタンゴ』の広報大使を務めた。現在、若手実力派バンドネオン奏者として各方面から注目されている。使用楽器は、恩師ネストル・マルコーニより譲り受けた銘器 Alfred Arnold。

(令和 2 年 8 月現在・転載禁止)